令和5年度第1回地域包括ケアシステム推進委員会議事録

◇日 時 令和5年9月20日(水) 15:30~17:10

◇会 場 安芸太田病院 2階 大会議室

◇参加者 委員名簿参照(14 名全員出席)

橋本町長・安芸太田町社会福祉協議会:戸田

健康福祉課:伊賀・佐々木文義・冨岡・野崎・佐々木健・西・川本(文責)

♦内 容

1.開会あいさつ 【平林センター長】

本日はご多用の中、令和 5 年度第 1 回の地域包括ケアシステム推進委員会のご出席いただき有り難うございます。

本来ですと橋本町長がご挨拶すべきところですが、地域包括ケアシステムにも関連すると思われますヘルスマイスター養成講座の修了書授与式に出席しておられ、本委員会の開会に間に合わないことになりましたので、保健・医療・福祉統括センター長の平林が町長に代ってご挨拶させていただきます。

地域包括ケアシステムとは、1970年代に御調総合病院の元院長の山口先生らにより展開された医療と福祉サービスを連携する実践形態が原形と言われています。本町でも同じ時期に私の2代前の初代病院事業管理者の岸先生により保健・医療・福祉の連携強化の重要性が論じられ、実際に現在の健康福祉課が役場から離れて病院に隣接し設置されたことは特筆すべきことであり、安芸太田町として誇りに思って良いことだと私は感じております。

また、地域包括ケアシステムの構成要素が①住まい、②医療、③介護、④生活支援、 ⑤介護予防の5つであり、高齢になっても自立した生活を継続し住み慣れた地域で 暮らしていくためには自助、互助(家族・地域)、共助(社会保険)、公助(福祉)と言っ た支援体制が重要になると言われています。

しかしながら、団塊の世代以前の例えば昭和一桁生まれの私の両親の世代は、自身が高齢者の面倒を見てきた中で経験し、自らも恐らくその様な最期を迎えるであろうと感じていたことが、大家族制から、都市部への人の移動による核家族化が急速に進み、加えて医療の発達に伴い平均寿命と健康寿命の乖離が顕著となり、自分達が経験したことのない激変した生活環境の中で最期をどの様に過ごすべきか答えが分からないまま、想像していたものとは異なる最期を迎えられた方も居られたのではないかと感じております。

ところが今、団塊世代の多くが後期高齢者となり、新たな意識を持った高齢者として、自助・互助の中心的役割を果たしていくために、行政主導ではない新たな地域包括ケアシステムの構築を求められているのではないかと感じております。また個人的には最期を迎えるかもしれない介護施設内においてもコミュニケーションが取れる仲間がいる様に元気な内から考えておくことも大切ではないかと考えております。

本日は先ず地域包括ケアシステム活動推進アドバイザーとして多くの地域で活躍さ

れており、本町の土居において昨年度から展開されている新たなシステム構築にも 参加して頂いています井岡先生にご講演をいただき、その上で改めて土居地区の取 り組みの報告を聞いていただき、その活動の横展開についてご議論頂くことになっ ておりますので、限られた時間ですが、宜しくお願い申し上げます。

2. 令和5年度地域包括ケアシステム推進委員会委員紹介

【事務局】 本日の出席については参加者名簿と配席札を参照頂き、出席者の紹介に 代えさせて頂く。今回全員の委員の出席を頂いている。

推進委員会の委員長と副委員長の選任について事務局より提案→承認 大江委員長、藤井副委員長より挨拶

【大江】 地域包括ケアシステム推進委員会に所属して3年目となる。本当によい体験をさせて頂き、改めて地域のこと、私達の地域でどう暮らし、介護され、看護され死んでいくかということを考えるきっかけにして頂いた。委員長という大任は重いが、皆様と一緒に安芸太田町の地域包括ケアシステムの充実・発展の一助になれたらと思う。

【藤井】 本日、昼1時から松村監督の出ておられるテレビ番組の中で、今は60歳になられるが、若い10代の頃から、身近におられた祖母の介護を手伝っておられた。若い時からそのような介護をされていることに頭が下がる思いである。これからも(高齢者と一緒にいる)若い人が身近な方の介護に関わる気持ちになって頂けるような介護施設や行政の体制になればと思う。これからも地域社会全体で介護を含めたことについて考えていくことを進めていきたい。

3. 議事

(1) 講義

演題 「住民主体の活動の横展開における意識啓発」

講師 安芸太田町地域包括ケアシステム推進活動アドバイザー

ローカリズム・ラボ代表 井岡 仁志 氏

講義資料参照

【大江】 私も土居に住み、住民主体の活動に1年半取り組んでいるが、井岡先生に理論立てて教えて頂いたことを今、改めて確認し、土居だけでなく、他の地域へ横展開していく示唆を頂いた。土居地区の取り組みとして自分の実践がどこにつながり、これでよいのか、今後どのように広げていくかをこうして検証して頂くことはありがたい。

(2) 住民主体の活動モデル地区の取組経過報告

【_{事務局}】 令和4年度からの取り組みに至る経過説明

【大江】 令和5年度の取り組みの説明

今年度の取り組みが半年経過した。基本的に月1回の「土居話そうかい」という集いで話したい人が集まって話している。「土居話そうかい便り」を話し合いの後、

発行し、土居全世帯に配布している。この便りにより、皆さんにどういう話をして、 どういう活動をしているかを共有している。単に集まって話して、そこに参加して いる人だけが理解しているのではなく、興味のあるなしに関わらず、土居全住民の 方に知ってもらいたいという思いで便りを出している。

この1年半取り組んで、月1回の話し合いの場がとてもよいと感じている。参加者は女性が多いが、普段近所で話すことを「土居話そうかい」の場で話すことにより、みんなで問題を共有することができ、話しただけで終わらず、どう解決していくかーつずつ解決策を話し合うことができる。見守りや子どもの通学路のこと、今年の夏は草取りが大変であったことも話題になる。土居公民館を使用する際に年配の方や障害のある方がトイレを使用する時に難しいのではないかという意見が出ると、町に改修費用の要請をした。また土居には空き家が多く、危険家屋の話題を出したところ、関係者に話し、結果的に危険家屋の撤去に至った。

一つの問題が出た時に誰が窓口になるか。誰が解決していくのかではなく、自分でできることを役割分担して、みんなで負担を分かち合おうと考えて取り組んでいる。 このことが集まって話し合う成果であると思う。

またうれしいことに土居地区には福祉施設が多く、特別養護老人ホームや障がい者の方の施設や企業(クリンプロ・西部環境)が入っている。このような施設等にも「土居話そうかい便り」を配布し始めたところ、松信園職員の方が毎回参加して下さるようになった。松信園としても実は地域と交流したいという希望があり、合流された集いはとても良い雰囲気になっている。前回、9月16日の「土居話そうかい」には、土居に住むことになった新人介護士さんと参加して頂いた。ベトナムからも職員として来られることも紹介された。このような情報をお互いに共有できることが良かった。

今、私達が気にかけているのは、ちょっとした金額でお互いさん活動をしているが、ちょっとした話し相手の依頼が多く、家の中に入って介護の手助けや病院への付き添いが難しいことである。それは地域の人が自分の家のことはまだ自分で行い、なかなかオープンにできていない地域性や閉鎖性があることである。そこを何とか変えて、もっと開放的に、地域で誰かが困った時には誰もが助け合えるようにしたい。これこそ最終的な目標であり、そのような地域になればと思う。お互い弱い所をお互いに話し合いながら、若い人も年配の人も移住して来られた人も一緒になって、よい地域を作り上げていきたいと思う。そういうことを目指して土居も取り組んでいき、このような悩みも他の地域の人と共有していきたい。今後は他の地域のモデル地区を選定し、一緒に取り組んでいきたいと思っている。

(3) 第1回意見交流会の報告

【事務局】 意見交流会開催の背景・目的・概況の説明 この報告が、今後のモデル地区選定の参考になればと思う。

(4) 意見交換

【大江】 私も意見交流会に参加したが、参加された方がそれぞれ自分の取り組んで

いることを話された会であったと思う。

ここに参加されている推進委員さんは人材育成講座(意見交流会)が何につながるかちょっとピンとこないかもしれないが、開催の目的は「住民主体の活動の横展開」つまり土居地区で取り組んでいるような活動をもっと地域に広げていくことであった。地域にどのような方が、どのようなことに興味を持っているか、まず集まって頂き、意見や情報交換をしてもらう交流会として開催した。本日の推進委員会の目的は井岡先生にご講義頂き、それを理解し、その講義を元に次のモデル地区の選定について話し合って頂くことである。

一つの案として「意見交流会に参加された地域からモデル地区を選ぶ」案であったが、来年度、他の地域に広げて発展させたい時、次のモデル地区をどのように選定したらよいか、本日考えて頂きたいと思う。

【岡田】 この推進委員会に継続して出席させて頂いている。土居の活動を聞いて「羨ましいな」と思った。そして土居の活動を町民の皆さんに知らせてはどうかと提案し、令和5年3月に戸河内ふれあいセンターでの講演会で報告された。その時のアンケートを事務局が集約され、6月13日に意見交流会を開催されたと思う。自分自身も参加対象であったが、シニアクラブの会議と重なり、欠席させて頂いた。後日、意見交流会のまとめを読ませて頂き、非常に有意義な会議であったと感じた。モデル地区として土居が取り組まれるかなり以前に大江委員が私の家に来られた時、女性に頑張ってもらうことを依頼したところ、「お互いに頑張りましょう」と言われ、頼もしいと感じた。大江委員に「女性に頑張ってほしい」とお願いしたことには理由がある。竹下登総理大臣の時にふるさと創生一億円事業が打ち出され、各市町村に一律1億円を配られた。福島県飯館村では20数名おられた女性会に村長がヨーロッパでの研修に行くように1億円を渡し、参加された19名の女性会の方は民泊を体験して帰国した。その後、農水省がグリーンツーリズムに取り組み、飯館村では東京都民や関東の方との交流が活発にあったと言われる。

その時初めて民泊を体験された方が東日本大震災以降も活動され、以前飯館村で民 泊を体験された方との交流があった。このことから女性が頑張らないといろんな物 事が進まないと感じている。

【大江】 話をどこに焦点を置くか苦慮している。一つの目的としては次のモデル地区の選定ということである。岡田委員に発言して頂いたが、この人材育成講座(意見交流会)に参加された地域から推薦するのか、もっと広く公募あるいは手を挙げてもらうような広報を出すなどいろいろと方法はあると思う。モデル地区は次だけではなく、どんどん広げていくので、厳しいこだわりがなくても大丈夫ではないかと思う。モデル地区としてお願いする側と受ける側のことがあるので、選出方法をどのように考えたらよいか意見を頂きたい。

【藤井】 高齢化率を見た時、寺領の才中得の高齢化率は38.1%であり、若い人が多いのではないかと思う。高齢化率の低い地域や自治振興会会長が意見を出されていた地域があるので、そのような地域を対象とされてはどうか。

【佐々木】 意見交流会は1回の開催予定であったかもしれないが、せっかく6月13日に第1回意見交流会を開催しているので、この続編として2回、3回と開催され

てはどうか。というのは第1回意見交流会に参加された地域以外にも参加を希望したが参加できなかった地域もあるのではないか。当日参加された方の中に、個人的な意見として「ぜひやりたい」という気持ちがあっても、地域との合意性に時間がかかるかもしれない。1回のみの意見交流会の開催で、いきなり次のモデル地区をお願いするのも言いにくいし、受ける方も受けにくいのが実状ではないかと思う。今年の間に第2回・3回と意見交流会を開催し、ここならお願いできる、確かに受けるところを選択していくのが充実した取り組みをして頂けるのではないか。

【大江】 今、高齢化率の低い所や自治振興会会長のおられる所を選定するとか、この人材育成講座を 2 回、3 回と開催してその中で煮詰まった地域を選定するという意見が出た。女性からの意見は?⇒意見なしまとめとして井岡先生の意見を頂きたい。

【井岡】 次期モデル地区の選定に関してはなかなか難しい。意見交流会に参加頂いた方は3月11日の講演会での土居地区の取り組みを聞かれて「良い取り組みだ」「まさに羨ましい」と言われていたが、「うちの地域でも取り組みたい」という思いを持たれた方々に、意見交流会に参加して頂いた。次の成功事例を作っていく上では一番良いのではないかと思う。

事務局から意見交流会の報告をされたが、それぞれの参加者の方の立場があり、行政側が何のためにやるのか、何のためのモデル地区なのか、もう一度立ち帰った時に地域包括ケアシステムを進めていくために、このモデル地区を広げたいというところと意見交流会に参加された方が思っているやりたいことがまだ合致できていないことを実際感じている。「地域をよくしたい」という思いは同じであるが、地域包括ケアシステムとしての住民主体の町づくり、地域づくりにつながるものかどうか。モデル地区の土居の取り組みを全くコピーペーストはできないとしても、その意図をどう汲んで取り組んでいけるか、こちら側の意図と皆さんの思いのすり合わせが必要ではないかと感じている。

何よりも大事なことは「やりたいんだ」という地域の皆さんの意思表示がきちんとできることであり、こちらの意図を理解してもらい、こちら側がなぜ応援しようとしているのかを十分踏まえて「ぜひやりたい」と手を挙げて頂きたい。この行政と地域の相思相愛の関係をどう築いていけるか、現状ではなかなかうまく見いだせていないのかなと思う。次期モデル地区の選定の選択肢として意見交流会に参加して頂けた方と、第1回意見交流会に参加された方だけでなく、第1回には参加できなかったが、2回めは参加できたという方を増やしながら思いを共有化できるとよいと個人的に思う。

【大江】 井岡先生の意見は個人的ではなくアドバイザーとしての示唆として受けとめる。事務局としての考えがあり、この推進委員会としての考えや方向など意見があると思う。本日、いろんな意見が出て、本日この場で、この方法でやっていこう、やって下さいということにはならないと思うが、本日の講義や意見を振り返りながら、意見やお考えがあれば事務局に寄せて頂きたい。

【市田】 人材育成講座で参加された方のいろんな意見が出ているが、市・三谷集落は 118 世帯、249 名で高齢化率は 48.6%である。私は集落協議会で中山間直接支払

制度の代表を第1期の平成10年から25年務めている。地域の美観事業としてJR法面に芝桜を植えて管理してきたが、なかなか手が行き届かないので、今は水仙を植え、筒賀地区のシンボル的な公園となっている。平成17年くらいから桜の木を全て伐採し、新しく100本の植樹をした。草刈りで幼木の時に木を切られてしまい、なかなかうまく木が残っていない状態であったが、レンギョウを植えた。

休耕田に取り組む構成員は当初93名であったが、今は63名となり、30名減っている。昨年から試験的に休耕田にそばを植えて収穫している。今年はそばを植えることを少し増やしている。この目的は構成員の方に年末に年越しそばを配布することで計画している。休耕田が増えてきたので、さらにヒマワリを植えた。花が咲いた時は非常にきれいであった。中山間直接支払い制度で農地を管理されている構成員の平均年齢が70歳であるが、今年のような猛暑になると半日仕事をすること自体が大変である。物事を始めることは易しいが、10年継続するためには人材が続いていないとできない。地域包括ケアシステムの取り組みにおいて、地域住民の皆さんが「明日は我が身」と考える方が多くおられたらよいのであるが、その点をどうやって皆さんにご理解頂くかが大きな問題である。私は今回、市・三谷が次期モデル地区を受けたほしいと言われたら、なかなか続けて取り組むことは難しいと思う。土居地区で花を植えておられるが、市・三谷地区でも国道沿いに間伐材で作った花壇に花を植えていたが、夏の一番暑い時の水やりがとても大変である。どうしても関係している人が従事せざるを得ない。共通の課題として人づくりから始めなければ難しいと考えるが、井岡先生にその点を伺いたい。

【大江】 土居の取り組みも継続することについて考え、思い巡らせながら「今回も」「今回も」とその積み重ねであると思っている。全く市田委員の意見の通りであると思う。事務局から今後の方針についてお願いしたい。

【伊賀】 貴重な意見を頂き、感謝申し上げる。確かに市田委員の意見のとおり、「人づくり」や「継続」というのは本当に大切なことであると思う。これから先、モデル地区という形で選定させて頂くにあたり、やはり私達はこの地域包括ケアシステムという福祉的な視点で考えていきたい。趣味の活動が「地域包括ケアシステム=地域づくり」にもつながるか、ある意味、福祉的な視点から緩やかに活動を進めていくならば、土居地区のように話し合いの場が継続できる、さらにその活動の中で地域の方を支え、見守り続けることができる活動を進められていくかを視点に選定する方向としている。本日頂いた意見にもあるように、6月13日の意見交流会に参加された方から、この方向で取り組もうということにはならないと思うので、佐々木委員の意見のように、このような意見交流会を重ねることによって、できれば今年度中、来年3月には次期モデル地区を選定できる流れで進めていきたいと考えている。

【大江】 方向が見えてきたようである。今すぐには思いつかなくても帰宅して新たな意見があれば事務局に伝えてほしい。ここで井岡先生からの助言を頂きたい。

【井岡】 市田委員からの質問のように、確かに安芸太田町は広島県内 23 市町の中で一番高齢化率が高い。その意味で今の高齢者への対応、そして 2025 年に後期高齢者となる団塊世代への対応が課題となる。日本の中で一番人口ボリュームの大き

い世代の皆さんが要介護状態となられると社会保障が持たないということで地域包括ケアシステムが始まっている。市田委員のご指摘のように 10 年後には人がいなくなる話も含めて、安芸太田町がこれからどうするかという遠大な話になる。そのことも含めて地域包括ケアシステムを考えていく必要がある。そういう意味では推進委員会が1時間半では時間が短く、議論が深まらない懸念がある。このことも含めてどのようにしていくか、今ここで簡単に助言として答えを出すことが難しい問題である。今後も真剣に皆さんと一緒に続けて取り組んでいきたい。

【大江】 以上で議事の進行はこれで終了する。

【事務局】 難しい舵取りとまとめ、報告を頂き、大江委員長に感謝申し上げる。

4. 閉会あいさつ 【橋本町長】

本日は長時間、時間を頂き、感謝申し上げる。この会議の前にヘルスマイスター養成 講座修了式があった。本町は「健康のまち」宣言をして、町の健康づくりのためにい ろんな取り組みをしている。

今回の地域包括ケアシステムで特に地域でお互いに支え合いという意味では、支えられる側はなかなかそういかないかもしれないが、支える側も健康でないと十分な取り組みができないので、健康づくりも非常に重要な要素であると思う。本日の修了式でもそのことを申し上げた。本日の推進委員会では地域包括ケアシステムのことについていろんな示唆に富んだ話をして頂いたと思う。

新型コロナの感染症法上の扱いは確かに変わったが、やはり新型コロナの爪痕は大変 大きく、地域のつながりや地域の活力の低下をどこの地域でも指摘を受けている。そ の中でも私が改めて注目しているのはこの地域包括ケアシステムの取り組み、あるい は戸河内土居の取り組みである。地域の活力の低下はいろんな見方があると思う。 市田委員が言われたように昔は様々な取り組みを地域で取り組んで頂けたが、今はイ ベントごとなどなかなかできない。一方で地域包括ケアシステムが目指しているもの は必ずしもそういう意味での「地域の元気」ではなく、地域で引き続き、皆さんが元 気で住み慣れた地域に住み続けて頂ける地域づくり、そういう意味の地域のつながり も活きながら、支え合いができる地域も「活力ある地域」ではないかと思っている。 そういう取り組みは本町でもできるところがたくさんあると思っており、それはまさ に戸河内土居で取り組んで頂き、多くの他の地域の方が羨ましいなと思っておられる 切り口ではないかと思っている。そういった意味では本日は本当にいろいろな示唆に 富むお話を頂いた。改めて事務局の方でも話をしており、この取り組みをできるとこ ろから横展開させて頂く。できることをできる範囲で取り組むことが重要な視点であ ると思っているので、「やってみよう」と思って頂けるところから始めさせて頂きた い。大変難しい課題もあるので、地域包括ケアシステムだけではない切り口と感じな がらまずできることから始めることが重要であると思う。それ以外の宿題はまさに行 政の頂点の私が受け止める課題と思いながら本日の会議に参加させて頂いた。 引き続きご指導頂くことをお願い申し上げる。

※推進委員会の開催時間の延長も今後検討する必要がある。